

## 5Sから始める中小企業の組織活性化術

### 第6回 さあ「5S活動」を始めよう！【2】

#### 【清掃】

「5S活動」の目的は、「緊張感のある組織」を作ることです。時代や社会が激しく動いている時に、緊張感に欠ける組織が生き残っていくのはかなり難しい。では、どうやって「緊張感のある組織」を作り上げていけばいいのでしょうか。一般に「清掃」とは、箒や雑巾を使って、事務所や倉庫、工場などを「掃く」「磨く」という意味ですが、「5S活動」における【清掃】は少し意味が変わります。

「5S活動」における【清掃】とは、活動の前段で【整理】【整頓】ということを行なっているのです。事務所や店舗、倉庫、工場などに「不要なものがなく」、「誰が見ても分かる表示された」状態になっています。実は、この「表示」という状態があることによって、日常行う「清掃」が、「点検保守」という意味を持ち始めるのです。例えば、社長のデスクに大型のホッチキスが置いてあったとします。今まであれば、朝事務員さんが「清掃」する時に、そのホッチキスを持ち上げて、雑巾でその下を拭き、そのままホッチキスを机の隅に置き直すというのが通常の動きです。

しかし、「5S活動」を実践している組織では、【整頓】というプロセスで「表示」を行なっているのです。誰が見ても分かるように「共通文具置き場」が定められていて、【清掃】の時に、その位置に戻すことが出来るのです。それは、入社して間もない若者であっても、外国人であっても、ベテランの人であっても、「表示」が適切な言語でなされていれば同じです。

#### 「5S活動」は共通言語

「組織」とは、「個人では達成できない目標を二人以上である複数の人間が、協同して達成するシステムのこと」と定義されます。二人以上の人間で構成されているので、そこには「共通言語」が必要なのですが、世代や性別、性格や気質がそれぞれ違うので、なかなか協同した動きが取れません。しかし、「5S活動」は、システム(仕組み)なので、一度きちんとした手順を踏んで、「共通認識」が出来上がると、誰でもその中で同じ動きができるようになります。つまり「共通言語」を持って、業務を遂行できるようになるのです。

#### 「5S活動」は壊れない

多くの企業が、年末やお盆の前に「大掃除」をやりながら、その時は一時的に綺麗になったように見えて、実際に2〜3週間経つと元に戻ってしまうのは、その活動が「点」と「思いつき」の活動だからです。一度「5S活動」というシステムを作り上げた組織は、なかなかレベルが落ちません。「共通言語」として仕組みを作ったので、「やっていない」ということがひと目で分かるのです。そこに置いてある機械は本来そこにあるべきなのか、そのファイルはそこでいいのか、通路に置きっぱなしの箱はどこに置くべきなのか、それ以前に処分(整理)しなくていいのか……。

こうした「問いかけ」が組織に出来るようになることによって、定期的に「5Sチェック」などという新しい仕組みを動かすことが出来るようになります。若い世代が「チェックシート」を持って、定期的に全社巡回を行い、経営陣へ「報告書」や「提案書」を提出するなどという風景が日常的になっている組織も少なくありません。それにより組織が活性化していくのです。

